

郷蔵米

通信

 8月号
2019

「ここは、いまだに昔ながらの農家かもしれないね」9月に刈り取るたんぼの持ち主、安江利之さんの家へ伺ったときに、清水さんが言われた言葉です。急な坂道を上っていくと立派な家の裏側に、雌牛3頭がいました。

牛舎はとてもきれいで、牛の毛もツヤツヤして、とても大事にされていることがわかります。お母さん牛はこれまで8回もお産をしてきたそう。

後ろには新年号になってから生まれた子牛のれいちゃんがいました。

なぜ牛を飼うのでしょうか。

それは良質な堆肥が欲しいからです。

これからの時期はお米の登熟期です。

たくさん光合成をして穂に栄養をおくります。光合成を^{みこえ}活発にするために慣行農法では実肥^{みこえ}といってチッソを主に

施しますが、病気もまた出やすく薬を使ったりするので、郷蔵米は実肥はしません。穂肥^{みこえ}といって、8月の初めまでに施肥は終わらせます。牛の堆肥は

ゆっくり、ちょうど登熟期に効き始めるので、とても具合がいいのです。

育てた米の稲わらを牛に食べてもらい、そしてできた牛糞を、堆肥としてまた

次の田んぼのために使われます。

無農薬の稲が循環していますね。

郷蔵米を食べた人間のうんちを

肥えにしたらすごい循環ですが、

他のものも食べてますからね。

牛は草食動物、草だけを食べ、大事に育てられた牛の体を通ってきたうんち

には、いいものが沢山入っています。

これだけ続けてきたことをやめるのは

勿体ないから継いでいるだけ、と前に

息子さんが言っていました。「勿体ない」

この言葉にすべてがありますね。


 9月22日
Sun

 午前10時～12時
雨天中止

稲刈りのお知らせ

集合場所 吉田地区 安江利之さんの田んぼ

持ちもの 軍手、長靴、稲刈り鎌、暑さ対策(帽子、タオル、水筒など)

会費 大人600円、小学生400円。

会員以外 / 大人1,000円、小学生500円。

昼食は2種類のおにぎりを用意しています

午後は川遊び、しいたけ園の見学ができます

★ 昼間に光合成で作られたブドウ糖は夜には稲に転流します。夜の気温が高いと稲は栄養を沢山使ってしまうので気温が低い方がお米はよくなります。寒暖差のある佐見で米作りができるのはラッキーですね



@sato_kuranosuke も見てね!

